



託北だより「あすなろ」No.54

「和」～敬・愛・信～

令和7年5月23日（金）

熊本市立託麻北小学校

文責：小倉 秀俊



HPコード

☀️ 「唯一無二の農業体験」

5月20日（火）に、1年生と2年生が、サツマイモの苗植えを体験しました。暑さが心配されましたが、風が意外と涼しく、無事に終えることができました。1年生も2年生も、地域の方の指示に従って、しっかり植えることができ、予定より早く終了しました。特に2年生は、去年の経験もあり、自分の範囲以外にも気を配り、空いているマルチシートの穴に丁寧に植えていて感心しました。次の体験は蔓返しです。また、この後、3・4年生の大豆の種蒔、5年生の田植え、6年生のジャガイモの植付が予定されています。このように、本校の規模において全学年で農業体験ができるのは、熊本市内では託麻北小だけではないかと思えます。これも地域の支援のお陰です。



とりわけ藤本会長をはじめ「供合地域農業・水・環境保全組織」の皆様におかれましては、農村環境保全活動の一環として、本校の啓発活動を選んでいただき、毎年体験させていただいています。「供合地域農業・水・環境保全組織」（以下「農地水」）は、農地の維持や農業維持施設の管理、水保全を中心とした農村環境の保全に取り組まれています。託麻北校区は、その半分を農地や森林（含む運動公園）が占めている環境に恵まれた地域です。しかし、維持管理はとても大変です。特に農業は後継者が不足し、休閒地が点在しております。農地水は、それを含めて管理されています。熊本は地下水が豊富だと言われていますが、地下水を維持するには、水田の維持が必要です。水田がなければ、降った雨は流れていきます。水田があることで地下に浸透し地下水に



浸透し地下水に

なるのです。

近年、大きな工場の進出で、地下水の保全が危惧されていますが、身近なところで、子どもたちの学ぶ機会があり、とてもありがたいことです。かの、武勇で有名な加藤清正も、農業の振興と水の管理・保全に尽力し、熊本の発展に大いに貢献したそうです。近くには「鼻ぐり」（白川水系の利用）の遺構も残っております。これからもその伝統を守り続けていきたいものです。

☀ 「くるみ学級」

5月20日（火）に、家庭教育学級（「くるみ学級」）の開級式が育成室を使って行われました。10名ほどの参加者でしたが、今後の活動について会員の保護者の皆様が熱心に話し合われました。その中で、お話をさせて頂きました。内容は「コーヒーの話」です。コーヒーとの出会いから、豆の種類や焙煎の方法、挽き方・淹れ方について、実演を交えながら話させていただきました。今、空前のコーヒーブームと言われ、チェーン店をはじめ、町のいたるところに専門店を見つけることができます。豆の種類も多く、案内がないと、どれを選んでよいのか迷ってしまいます。しかし、ブルーマウンテンをはじめ、レギュラーコーヒーと言われるコーヒーの原種は、「アラビカ種」の一つのみです。世界には原種が三つあり、「アラビカ種」はその一つで、流通しているコーヒー豆の約6割を占めています。では、なぜ、品種がたくさんあるのか。それは栽培される場所や気候、あるいは栽培方法が違うからです。また、それ以上に、淹れたときの香りや味が違うのは、焙煎の方法や挽き方の違い、あるいは淹れ方の違いによるものです。極端に言えば、淹れた人によって違うということです。これは、子育てと共通するものがあり、家庭環境や育った地域、学んだ学校や習い事、そして、就いた仕事や経験によって、人としての味が違ってきます。もちろん最後は自分で淹れるのです。このような話をさせて頂きました。「くるみ学級」では、今後も、いろいろな魅力的な活動を計画されていますので、ぜひ参加されてみてください。

コーヒーブレイク



先日、「マツコの知らない世界」という番組を見ていたら、モーションキャッチャーというゲームの制作現場で活躍する人について紹介していました。インベーダーゲーム世代で、ファミコンまでしかやったことのない私にとっては、未知の世界の話でした。実写かと思ふような映像で、しかもゲームをしている人のコントロールで動きが変わり、その上リアルであるという内容でした。しかし、これはAIが作ったものではなく、全て人の手作業だそうです。一つ一つの動作を撮影し、それを取り込んでいくという途方もなく手間のかかる作業です。中には1つのキャラクターで、2600カット、収録に丸4年かかったそうです。こんな作業、AIは選ばないと思います。人にはAIが超えられない能力があることを聞いて安心しました。このようなたゆまない努力が世界から評価され、何億という人々を魅了しているそうです。